



説教の課題	「人の子」とは誰か 座談会総括5/6 テーマV 建てられた地域に対して 教会はどのような関わりを持っていったらよいのか	…… 久米三千雄 …… 1
旧約聖書に聴く	「原初史が語る人間と世界」(5) 「誘惑と墮罪」	…… 石飛 律子 …… 2
憲法改正25年(第6、7条)		…… 高松 牧人 …… 3
教会、この地とともに	宣教の務めを果たすために ③ 札幌豊平教会 他者と共に、他者のために	…… 八田 牧人 …… 4
コロナの現場	⑤ 福祉施設のコロナ対策	…… 栗林 聖子 …… 6
コロナ禍の中で	⑬ 集會を怠ったりせず	…… 久野 牧 …… 6
定期中会報告	中会の転換期を迎えて 本質に立ち帰るとき 守り通さなければならない一線 教会ニュース	…… 東京中会 …… 7 …… 近畿中会 …… 7 …… 九州中会 …… 8 …… 8

## 「人の子」とは誰か

夜の幻をなお見ていると、見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り／「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み／権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え／彼の支配はとこしえに続き／その統治は滅びることがない。(ダニエル書7:13-14)

く め み ち お  
久 米 三 千 雄

世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっています。こうした時に聖書は私たちに何を語っているのでしょうか。その鍵は、ダニエル書の7章13節以下「人の子のような者」が来臨する終末時の記述にあります。この「人の子」の説明は複雑ですが、今日のキリスト教会にとって最も大切な、キリストの御業と教会形成に関する部分でもあります。

「人の子」の原語は一世紀のパレスチナ北部のアラム語で、バルナアシャともバルハナシャとも発音されていました。この単語は単数の意味と同時に複数の集合体にも用いられ、ここでは単数である人の子と、複数であるいと高き聖徒たちの群れとが同一視されています。すなわち、日の老いたる者（＝永遠なる父なる神）の御前に導かれた人の子は、聖徒たちの群れであるキリストの教会も意味しています。キリストは、私たち教会の首として、教会の代表的な人格の始めであり終わりであり、全てを導く贖い主であります。

ウイルスは今日の世界が抱える問題の原因というよりもむしろ結果であると考えられます。過去数十年の間に地球規模で環境破壊が進み、大規模な自然災害が頻発するようになりました。また高度に発達した市場型資本主義の中で極端な富の集中と格差拡大が進みました。ここに悪疫ウイルスの蔓延が重なって多くの死者が出ている今日の世界は、まさに終末の様相を呈しています。聖書に描かれている巨大な悪の勢力が、凶暴な獣の如く暴力と破壊を繰り返していき世界に似ています。だとすれば、ダニエル書に啓示された「人の子」の姿とは、暴力をも辞

さない世界の軍事大国や、貪欲に利益追求する資本主義などの凶暴な獣に立ち向かう、キリストの教会を意味しているのではないのでしょうか。

もちろん多少の時間の伸縮はあっても、神の主権と勝利宣言は既に発せられています。天上には厳然と神の御声が響き、その最終的な審判は決定的に明らかにされていきます。しかしこの世においては、未だ残敵の掃討のための教会の闘いは続いています。教会は、聖霊と生ける神の御言葉に耳を傾けつつ、世にある限りは戦闘の教会であり続ける必要があります。そして今日の世界にあつての闘いにおいては、神への祈りと十分な自己吟味の上に立ち、高慢にならず、壊れてしまった他者との関係の修復を図り、貧しい者や小さい者たちが見捨てられたままにならないよう、細部にまで配慮を尽くしたものでなければなりません。

いまホモ・サピエンスの出発点から今日の情報テクノロジーの進歩に至るまでの人類史が見直されています。皮肉にも人間の有するあまりに高い認知と適応の能力が、自然を破壊し環境劣化の速度を早めてきました。もはや地球は修復不可能であり、人類全体の生存危機が眼前にあります。その解決は人知を超えた創造主であり救い主である贖いの神に委ねるほかありません。そして私たちは、ダニエル書に啓示された「人の子」の姿のように、主イエス・キリストが代表する人格共同体に統合された体の一部として、この世にあつての闘いを続け、主に従って生きる道を喜んで歩みたいと思います。

(東京中会教師)